

	課題：児童の実態・学習状況、指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手だて
国語	○自分の意見や考えを相手に伝えたり、聞いたり、話し合い活動が活発にできるようになった。 ○読書を好む児童は多いが、読む内容に偏りがあったり読書量に個人差があったりする。 ○漢字の習得率は5年生の時に比べると全体的に上がってきている。熟語の習得率も上がっている。	☆継続的に話し合い活動を取り入れ、対話の機会を増やす。 ☆考えたくなる動機付けを大切にした指導の充実を図る。 ☆読書する時間を確保し、様々な分野の本に触れられるよう、ブックトークなどで紹介してだけでなく、自分たちで紹介し合えるようにする。 ☆学んだ漢字を活用できるように、普段から文章を書くときには既習漢字を用いることを徹底する。
社会	○多くの児童が歴史的事象に興味・関心をもって学習しているが、知識の定着に個人差が見られる。 ○調べる学習活動は、主に学習者用端末を使って意欲的に取り組むことができる。資料を読み取る力・読み取ったことをもとに表現する力、前の時代との比較した気づきに課題がある児童がいる。	☆導入や資料の提示の仕方を工夫し、興味・関心を高める。問題解決的な学習展開を取り入れ、すすんで学習に取り組めるようにしていく。 ☆資料を読み取る技能を、段階的に確認しながら指導し、高めていく。同時に資料から読み取った内容を、年表や人物画像を活用して学習者用端末でまとめる方法についても指導する。
算数	○理解が深まっている児童と、基礎・基本の定着に課題がある児童と差がみられる。 ○計算の定着に課題が見られる。特に、かけ算九九、わり算の筆算に課題が見られる。 ○分数のかけ算・わり算の計算の仕方に課題がある児童が多い。 ○比の概念の定着に課題が見られる。 ○立体の概念の定着に課題が見られる。	☆習熟度別での授業の取り組みの中で、さらに学びが深まるように、基本・発展・統合的な課題を提示したり、発問を工夫したりしていく。 ☆互いの意見を比較・検討し、自分の考えがどのように変化していったのか意識できるように指導する。 ☆東京ベーシック・ドリルや復習プリント等を活用し、学習内容の定着を図る。特に、計算力の向上を目指し、既習の計算を繰り返し取り組むようにする。 ☆プリント学習などで繰り返し定着を図っている。 ☆立体模型等を活用し、手で触れることで立体の概念が定着できるようにする。
理科	○実験・観察等の学習には大変興味をもって取り組むことができる。 ○実験・観察した結果をもとに、考察しようとする態度が身に付いている。 ○表現力に個人差が見られ、日常の経験から予想を立てたり、結果から分かることを考察したり、文章にまとめる指導の充実を図る必要がある。	☆実験・観察等の学習に対して、予想・考察の立て方、ノートの取り方を指導し、次時の課題につなげていく。 ☆視覚的な教材も利用し、さらに児童がイメージをもてるような指導をしていく。 ☆タブレットドリルなどを宿題や自習の場面で活用し、学習内容を反復して確実に定着できるようにしていく。 ☆班活動を基本とし、意見交換しやすい環境を整えることで、多様な意見に触れることと、自信をもって意見を発表することができるように指導する。 ☆表現力を高めるために、発表された意見をもとにキーワードを振り返り、具体的にどのように表現したらよいかを確認したうえで、実際にまとめる活動を指導していく。
音楽	○演奏技術については、全体的に基礎基本の定着が必要である。 ○生き生きと表現することのできる児童もいるが、表現に対して自信のもてない児童もいる。 ○可能な限りより多くの人たちに自分たちの音楽を聴いてもらう場を設定し、表現力の向上を目指す。	☆学習者用端末の手本動画を活用したり、楽譜の難易度を複数準備したりし、個人差に対応していく。 ☆褒め合う場面を増やし、安心して表現できる雰囲気をつくる。 ☆互いの演奏を聴き合い、良さや改善点を共有できるようにする。また、発表の場を設けることにより、音楽の楽しさや達成感を味わわせていく。
図工	○全体指導の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見つけることや、どのように表すかについて考える力を伸ばす必要がある。	☆板書、書画カメラ、学習者用端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声をかけ、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。ワークシートや学習者用端末などを活用し、自分の思いや考えを確認したり深めたりできるようにする。
家庭	○意欲や活動の進め方に個人差があり、グループでの学習では活動量の差ができてしまうことがあった。 ○学習した内容を自分の生活に取り入れ、工夫して生活しようとする児童に個人差が見られる。	☆グループ活動に際して、話し合いをもとに個々の目標を立てさせ、また互いに評価し合えるようにする。 ☆工夫して快適な生活ができるように、生活を振り返ることを取り入れ学習した内容を継続的に取り組めるようにする。
体育	○自分に合っためあてを立てて学習に取り組んだり、振り返って学んだことを友達とすすんで共有できたりする児童が増えた。 ○柔軟性や巧緻性が低下してきている。意図的に高める必要がある。 ○みんなが楽しく運動に取り組むためのルールや作戦の工夫についての話し合いに積極的に参加している。	☆自分の中での気づきや、友達の動きを見て見つけたコツ等を共有したり記録したりする機会を大切にする。また、学習者用端末を活用して映像を撮ることで、授業後にも自らの動きを振り返らせる機会を作る。 ☆個人カードに記録をしたり、活動への振り返りを行わせたりして技能の習得や向上が実感できるようにする。 ☆クラスの実態に合わせてルールや作戦を簡易化し、児童がルールや作戦を工夫できるようにする。
道徳	○資料（物語）の内容に終始してしまい、自己の振り返りまでできない児童も見られる。 ○議論しながら価値項目に迫ることが課題である。	☆発問を厳選し、何を考えればよいのか明確にする。また、さらに自己を振り返られるよう、ワークシートやICTの活用や、学級での意見交流をしながら授業を展開していく。 ☆自分の意見をもち、今後の実生活に活かせるように対話活動を充実させる。
外国語	○学習に主体的に取り組んだり、質問に対して、すぐに答えて、コミュニケーションを楽しめたりする児童が多い。 ○全体的にリスニングはよくできているが、既習事項を用いて、相手を意識して、自分の思いを伝えていくことへの個人差が大きい。	☆様々な活動から無理なく参加できる状況を見極める。単元最後の活動のゴールを示し見通しをもたせたり、話したくなるようなトピックを設定したりする。 ☆学習端末を活用し、自分のことを表現しやすくできるようにする。またどのように発音するか何度も確認できるよう学習端末で音声も付けてカードを配布する。どのようにしたら、相手に伝わりやすいか常に確認していく。